

高知大学総合情報センター広報誌 OWL

# あさる

♪ VOICE OF THE FOREST



No.10  
—2013.10—

## 特集 図書館へのいさな



P.1-2 図書館と恋

大学図書館 —まずは意識的に驚いてみよう

P.3-4 図書館が出てくる小説・映画

P.5-6 高知大生に薦めるこの一冊

P.7 めでいもりだより







## 「図書館と恋」

武藤整司  
(人文学部・教授)



あれは中学校三年生のときだった。密かに思いを寄せていた同級生に、夏休みに近所の図書館で一緒に勉強しないかと持ちかけたことがある。彼女は学年中で一番の秀才で、とくに国語が得意だったと記憶している。国語の教師が、「本当は百点満点の答案だが、満点はつけないので、九十九点をつけた。氏名の文字のハネが不十分だったからね」といって、彼女の答案をひらひらさせたことがある。数学などの理科系科目もできたはずだから、小生にとっては「ガリ勉少女」のイメージが残っているが、同じバスバンド部に所属していたので、勉強ばかりしていたわけではないだろう。小生はトロンボーンとチューバを担当していたが、少しも上達しなかった。彼女はピッコロだった。あまり上手ではなかったと思う。ある日、練習していた部員が小生と彼女だけとなって、とても幸福な気分になったことを覚えている。

そんな関係の二人だったので、試験の成績を互いに確認し合っていて喜んでいた。もっとも、小生の成績は二年生になって格段に落ちてしまったので、その後しばらくは彼女から相手にされなくなった。発奮した小生は三年生の一学期に以前の成績を取り戻したので、またかまってくれるようになった。そんな矢先、上で述べた図書館通いを提案したのである。彼女は快諾してくれた。小生は有頂天になり、受験勉強のついでに恋の方も成就してやろうと目論んだ。結末はどうなったか。彼女は文字通り勉強に打ち込んでおり、小生も仕方なしに勉強するふりをして彼女を見詰めていた。夏休みの二週間くらいだったか、まったく距離を縮めることなく、二人は過ごしたのである。取りつく島もなかったのである。

翌年、首尾よく二人とも同じ高校に入学したが、中学時代にはついに思いを打ち明けることはできなかった。高校生になった小生は、たちまち別の人に恋をしたので、彼女は少しずつ思い出の人となっていった。あれから四十年以上経つが、どうしているのだろうか。薬学の道に進んだらしいことは知っているが……。

図書館と恋という妙な取り合わせでこの駄文を書き始めたが、文芸作品においても、けっこう図書館は登場する。しかも恋を伴って。たとえば、最近読んだ『美丘』（石田衣良 著、角川文庫、初版2009年）という恋愛小説にも図書館が重要な場所として描かれている。また、題名を思い出せないのだが、丸谷オーの短篇で、図書館を舞台にした恋愛小説が存在したと思う。図書館と言えば「静的」なイメージが伴うが、静かにしていなければならない場所であるだけに、かえって内面的には大荒れということも考えられ得る。

さて、ここからは小生の妄想であるが、賢明な諸子は笑って受け流してほしい。たとえば、『リルケの詩集』などを小脇に抱えた美少女が、図書室に入ってくる。高校生である小生の斜め向かいに座る。学校でも指折りの美少女だ。小生は少し動揺するが、それを気取られないように俯いて息を整える。ところが、意に反して心臓の鼓動が激しくなり、その音を聴かれやしまいかとさらに動揺する。小生はおそらくドストエフスキーの『罪と罰』を読んでいる。もう、文字さえ追えなくなってくる。図書館は本を読んだり勉強したりするところであって、ここを動揺させるところではない。そんなことは分かっている。しかし、どうしようもない。小生は本を閉じ、静かに立ち上がり、その場を立ち去る。美少女は『リルケの詩集』に没頭している。数日後、小生は開架されている『リルケの詩集』を

手に取り、パラパラと頁をめくってみる。馥郁とした香りが漂ってくるような錯覚に襲われる。文字が踊り始める。

### 薔薇の内部 (Das Rosen-Innere)

ライナー・マリア・リルケ (Rainer Maria Rilke) / 富士川英郎 訳

何処にこの内部に対する  
外部があるのだろうか? どんな痛みのうえに  
このような麻布があてられるのか?  
この憂いなく  
ひらいた薔薇の  
内湖に映っているのは  
どの空なのだろうか? 見よ  
どんなに薔薇が咲きこぼれ  
ほぐれているかを ふるえる手さえ  
それを散りこぼすことができないかのよう  
薔薇にはほとんど自分が  
支えきれないのだ その多くの花は  
みちあふれ  
内部の世界から  
外部へとあふれでている  
そして外部はますますみちみちて 圏を閉じ  
ついに夏ぜんたいが 一つの部屋に  
夢のなかの一つの部屋になるのだ

小生は、この詩が掲載されている頁に薔薇の花弁を挟み込んで、再び本棚に返す。果たして、あの美少女は、再びこの本を手取るだろうか。そして、薔薇の花弁に気付くのだろうか。

ところで、夏目漱石に『三四郎』という作品がある。続篇である『それから』と『門』と併せて、「前期三部作」と言われることもある。恋とエゴイズムが三作に通底するテーマであるが、最初の作品である『三四郎』には、あまり深刻な場面は出てこない。さて、この作品にも図書館が登場する。「ヘーゲルの伯林大学に哲学を講じた時、ヘーゲルに毫も哲学を売るの意なし」で始まる図書館の本の落書に関する挿話である。

この一節を読み、さらに今日の学問の在り方に考え及ぶと、明治の牧歌的な時代が羨ましく感じられる。「ヘーゲルに毫も哲学を売るの意なし」の言葉が、もしや生きていたかもしれないと思うからである。

図書館は今でも静かに佇んでいる。誰でも歓迎し、「知る自由」を満喫することができる。そして、もしかすると、恋や人生の感慨を拾うことも、あるいはできるかもしれない。

丸谷オー氏の短篇小説  
「鈍感な少年」は文学界  
40巻1号(1986年)に  
掲載されています。  
(中央館所蔵)





## 「大学図書館 —まずは意識的に驚いてみよう—」

武久康高  
(教育学部・准教授)



図書館より書店のほうが好きである。(借りだけの図書館)と違って書店は我々の所有欲を満たしてくれるし、陳列の仕方やカラフルな手書きPOP、意匠を凝らした表紙、帯のキャッチコピーなど、様々な趣向で私たちの目を楽しませてくれるからである。このように書店には本を手にとってもらうための仕掛けがあふれており、我々はついつい時間を忘れてあれもこれもと手を伸ばしてしまうのだ。

一方、図書館——とりわけ大学図書館はどうだろうか。そこは書店に比べ大層硬派な印象を受ける。たとえ貸出回数ナンバーワンの書籍だとしても、それが何冊も平積みされている光景は想像しにくいだろう。そこでは自慢の表紙カバーや帯も剥ぎ取られ、他の書籍と同様、分類番号にそって整然と並べられているだけである。このように大学図書館には、本を手にとってもらうための戦略はほとんどないと言ってよい。そのためであろうか、ぶらりと大学図書館に入っても、私は書店ほど心が高揚しないのだ。

\*

そんなある日、文化人類学者である西江雅之氏のエッセイを読んだ(「本気と覚悟を持って」朝日新聞2008.9.2)。そこには「出会いは実力だ」という氏の持論に関連して、次のような文言があった。

本当は、どこに行っても、見る目さえあれば、世界は豊かな驚きに満ちているはずだ。隣近所の風景でも、親しい人たちの中にも、見出そうと思えば、普段は見えない様々な面が多く見えてくる。ただ、多くの場合、そうした出会いを素晴らしいものにする、当人の実力が伴わないというだけである。

確かに「見る目さえあれば」、「世界は豊かな驚きに満ちている」に違いない。しかし、そうした「出会いを素晴らしいものにする」「見る目」を養うには、「当人の実力」はもちろんのこと、「出会い」を「見出そう」という個々の意識や行動が必要である。そのため西江氏は、「一日に数回は、何かに驚くように心がけている」そうである。そうすることで、「普段は見過ぎてしまっている出会い」がもたらされることがあるという。私はこうした西江氏の姿勢に共感をおぼえた。

\*

8月某日、私は中央館へと向かった。私にとっては硬派すぎて何のひっかけもなかった図書館で「驚く」ためだ。せっくなので、自分の研究分野とは関連が少ない3階フロアを隈なく歩き回ることにした。

中央館3階、そこは様々な驚きに満ちていた。『モンスター』というタイトルに惹かれて手に取ったものの実は数学の本だったり、『さびを防ぐ事典』という分厚い事典の存在から、さびを防ぐことが我々の生活にとっていかに重要なかを思い知らされた。また、『興奮する匂い』という本によると、残念ながら「振りかければたちまち異性が群がってくるような『性フェロモン』がヒトに存在するという証拠は、現在のところ全くない」そうである。さらに、趣味が高じて書かれた『趣味の駅名事典』という本からは、マニア道を究めた者が放つ神々しささえ感じられた。

大学図書館には、あの手この手で本を手にとらせようとする商売っ気はない。ただ静かに、その人にとって必要な本との出会いの場を提供する、そんな空間である。そのため我々には、「驚き」や「出会い」を見出そうとする能動的な意識が必要となる。だがそうした心がけさえあれば、

大学図書館は我々にとって必ず豊かな驚きに満ちた場となるであろう。せっかくそんな豊かな空間があるのだから、今後も「出会い」を求めて足繁く通いたい。そんなことを思った夏の日であった。

### □『食べる』

西江雅之 青土社

### □『アフリカのことば：アフリカ/言語ノート集成』

西江雅之 河出書房新社

### □『「食」の課外授業』

西江雅之 平凡社

### □『「ことば」の課外授業：“ハダシの学者”の言語学1週間』

西江雅之 洋泉社

### □『ヒトかサルかと問われても：“歩く文化人類学者”半生記』

西江雅之 読売新聞社

### □『サルとヒトの檻：文化人類学講義』

西江雅之、吉行淳之介 朝日出版社



高知大学図書館  
所蔵の西江雅之氏  
の本です。

### 表紙の人

中央館で勉強中の学生さんです。学業に部活に充実した学生さんは、図書館活用も得意です。



いぐち いっさく  
井口維作  
理学部理学科3年  
「サッカーと学習を  
両立しています。」

いけだ みさき  
池田実咲  
理学部理学科3年  
「子ども倶楽部も  
頑張っています!」



# 図書館が小説



## 小説編

### 村上春樹 『海辺のカフカ』 (新潮社)

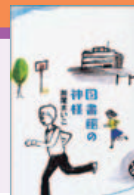


家出少年が不思議な世界の往来をとおして、心の成長を遂げていく物語。

ここに  
着目!

世界で一番タフな15歳の少年になろうと決意した少年カフカがたどりついたのは高松の私立図書館でした。ギリシア悲劇のオイディプス王の物語と、『源氏物語』や『雨月物語』などの日本の古典小説が物語の各所で用いられています。

### 瀬尾まいこ 『図書館の神様』 (マガジンハウス)

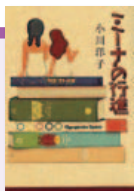


夢をあきらめて教師となるべく赴任した高校の文芸部顧問となった主人公の傷ついた心が回復し、再生していく物語。

ここに  
着目!

国語教師と文芸部という設定から、作品中には数々の文学作品が登場し、これらの作品をめぐる文学音痴の私と部員垣内君の間では文学談義が交わされます。

### 小川洋子 『ミーナの行進』 (中央公論新社)



ミュンヘンオリンピックの年(1972年)に芦屋の洋館で育まれた、ふたりの少女と、家族の物語。

ここに  
着目!

語り手の少女は病弱なもう一方の読書好きの少女に頼まれて図書館で本を借りることとなり、とつくりさん(タートルネックが似合う青年司書)に淡い恋心を抱きます。本来の借り手の少女の感想を通してとつくりさんとかわす会話にときめき、終わりでは自分の言葉で感想を述べるようになります。

### 村上春樹／佐々木マキ 『ふしぎな図書館』 (講談社)



貸出禁止の本を図書館で読むことになった少年が不思議な世界に迷い込むファンタジー。

ここに  
着目!

「オスマントルコ帝国の税金のあつめ方について知りたいんです」と訊ねたばかりは、案内された図書館の地下の閲覧室にとじこめられてしまいます。

### リチャード・ブローティガン 『愛のゆくえ』 (ハヤカワepi文庫)



24時間営業の図書館で住み込み図書館員としてひきこもり生活をしていた青年が来館した美女と出会い、旅立つ風変わりな恋物語。

ここに  
着目!

主人公が働く図書館は、人々が一番大切な思いを綴った本だけを保管する珍しい図書館、出版されなかった本、人生の勝者ではない人々が自分の書いた本をもちこんでくることです。

### 三崎亜紀 『図書館』 (集英社『廃墟建築士』所収)



市から依頼を受けて派遣された女性が、図書館の持つ“野生”を調教し夜間開館を実現させる物語。

ここに  
着目!

深夜の図書館では本が野生に戻って本棚の周りを飛翔しています。<動物園の夜間開館>では、夜行動物の生態を見せませんが、<図書館の夜間開館>では飛び回る本の生態を見せるのです。

ライトな感覚で読みたいあなたには。。。

### 三上 延 『ピブリア古書堂の事件手帖』 (メディアワークス文庫)



図書館と書店はきってもきれない仲です。古本屋「ピブリア古書堂」の若き女店主のもとに持ち込まれる、いわくつきの古書の謎を解くミステリー。

### 有川浩 『図書館戦争』(メディアワークス)



漫画・アニメ・映画と派生作品も多いですが、原作小説を読んでみませんか?

高校時代に出会った、図書隊員を名乗る“王子様”にあこがれ、行き過ぎた検閲から本を守るための組織・図書隊に入隊した女の子の本と恋のエンターテインメント。

図書館のお仕事に興味ありのあなたには。。。

### 門井慶喜 『おさがしの本は』 (光文社文庫)



公共図書館のおかれている状況と司書の仕事の内情も垣間見ることができます。利用者が探している本を図書館員が調べるレファレンスサービスをめぐる探書ミステリー。



# 出てくる 映画

図書館は勉強する場だ!(だから私には関係ない)なんて思っていませんか?  
勉強以外にも、図書館にはいろいろな顔があります。  
小説や映画に登場することも多く、今回はその一部をご紹介します。



## 歴史の中の図書館



### 『アレクサンドリア』 (2009年 スペイン映画)

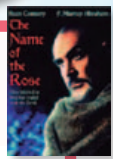
4世紀のアレクサンドリアを舞台にローマ帝国末期の混乱と争いの中で己の信念を貫いた女性科学者を軸に描かれた歴史ドラマ。

人類が文明を得て、歴史の歩みを始めたとき、記憶は大きな力になりました。過去のさまざまな時代の本を大量に収集しようとした図書館が古代エジプトにありました。

多神教徒と原始キリスト教徒の大衝突後、アレクサンドリア図書館は異教の魔窟として破壊される。

\*紀元前3世紀末にプトレマイオス朝の王によって建てられた古代世界最大の学術センター

### 『薔薇の名前』 (1986年 フランス、イタリア、西ドイツ合作映画)

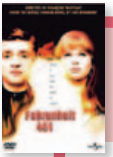


ウンベルト・エーコのベストセラー小説の映画化。14世紀中世ヨーロッパの修道院を舞台に、会議に出席に来た中年修道士と弟子の若者が、そこで起きた連続殺人事件の謎を解くサスペンスミステリー。

暗黒の時代と呼ばれる中世ヨーロッパの図書館に驚かされる映画です。原作は難解ですが、映画は娯楽エンターテインメントに仕上がっています。

修道院の文書庫(螺旋形の塔内図書館)に収められている一冊の禁書から事件は始まる。

## 口伝て図書館



### 『華氏 451度』 (1966年 イギリス映画)

本の所持や読書が禁じられた、架空の社会における人間模様を描いたレイ・ブラッドベリ原作SFの映画化。

人々が考えることをうとましく思う類の為政者が出現した場合、悲喜劇が生じます。この映画の中で、本は人々に悪影響を与えるものとして焼かれますが、抵抗する人は決して破壊されない本として、自分の存在を1冊の蔵書とするのです。

主人公は当初、模範的な焚書官(ファイヤーマン)として登場するが、本の攻防をめぐるなかで疑問を抱くようになる。

\* (本の素材である)紙が燃え始める温度(華氏451度=摂氏233度)

## 図書館で希望を育てる

### 『ショーシャンクの空に』 (1994年 アメリカ映画)



スティーヴン・キングの『刑務所のリタ・ヘイワース』を映画化。冤罪によって投獄された元銀行員が過酷な獄中生活を生き抜き脱獄に成功する人間ドラマ。

獄中で囚人が多くの本を読破し、その人間性が変わるといことはよく聞かれます。この映画では、刑務所図書館がでてきます。

図書係となった主人公は単なる倉庫にすぎなかった図書室を、その有能な手腕で整備していき、本を読む男たちで埋まっていく部屋とする。

## 図書館で出あう



### 『ある愛の詩』 (1970年 アメリカ映画)

環境のまったく異なった世界に育った男女の愛の物語。

図書館は人と出あう場所でもあります。この映画で、ヒロインは格差をのりこえ結婚しますが、不治の病に倒れます。彼女が残す”Love means never having to say you're sorry”の言葉とともにフランシス・レイの流麗な音楽が一世を風靡した、ハンカチ必至の恋愛映画の名作です。

お金持ちの男子学生は他大学の本を借りようとし、その図書館でアルバイトしていた女子学生と出あう。

## 図書館と映画、興味がわきましたか? もっと、知りたいあなたには。。。

### 飯島 朋子 『映画の中の本屋と図書館』 (日本図書刊行会)

本屋や図書館が登場する素敵な映画を紹介しています。本好きも映画好きも満足!?



### あうる9号(2013.4)

### クロスワードパズルの解答

解答: ヤマモモ

1	ウ	7	2	ラ	3	イ	+
	ミ		4	チ		ン	
5	ヒ	6	モ		7	サ	8
9	ル		リ	10	マ	ツ	リ
	モ			11	オ	キ	テ



# 高知大生 に薦める この一冊

Power  
Push!



## スティーブン・R・コヴィー 著 川西茂 訳 『7つの習慣』 (キングベアー出版)

(原文: The Seven Habits of Highly Effective People. Simon & Schuster New York)

この本はビジネス界に大きな影響を与えた本として有名ですが、哲学や心理学、宗教の考えもふまえており、自分自身とのつきあいや自己啓発、友人・家族・社会との人間関係にもヒントを与えてくれます。卒業、結婚、就職していく中で壁に当たったときに読み返すと、新たなヒントが得られるでしょう。本は読む人の内面を映し出す鑑ですね。コヴィーさんは昨年亡くなりましたが、本を著して下さったおかげで私たちも国や時間を超えて何度でも彼の考えに触れることができます。

(医学部教員 渡橋和政)



## くさかり樹 著 『ヘルプマン!』 (講談社)

みなさんは「介護」というものをしたことがありますか。この漫画に描かれているのは、介護の現場での目を背けたいような現実です。在宅介護における困難、それに耐える家族の苦しみなどがとてもリアルに描かれています。

作者のくさかり樹さんは高知県出身の方で、この作品で第40回日本漫画家協会賞大賞を受賞されています。

介護する人と介護される人のどちらの苦しみも、そして喜びも理解できる漫画だとおもいます。

(医学部看護学科2年 岡崎 葵)



## 畑井喜司雄、小川和夫 著 『新魚病図鑑』 (緑書房)

推薦図書でなぜ図鑑!? しかも魚の病気って...と思われたでしょうか。実は、魚の病気の様子を示した写真というのは、教科書やインターネットで探してもあまり見つからないのです。その中で、この本は本当に珍しい、まさに「魚の病気の図鑑」です。図鑑を見るとワクワクして実物を見たいくなる、子供の頃のそういった気持ちにさせてくれる、だけど、実際に実物を見ると後悔してしまう? 私が推薦する面白い図鑑です。

(農学部教員 今城雅之)





ジェームズ・ワトソン他、吉成真由美 インタビュー・編  
『**知の逆転**』  
(NHK出版新書)



本書は、サイエンスライターの編者が各界を代表する学者6人に対して行ったインタビューをまとめたものです。「人生に意味はあるのか」、「インターネットは集合知を生むか」、「科学は宗教に取って代わるか」など、私たちが知りたい数多くのテーマについて世界最高の叡智が語ります。真実を追求し、学問の常識を逆転させてきた彼らの思考・予見は、判断に迷いがちな私たちが現代をより良く生きるための手掛かりになるはずです。

(大学院農学専攻1年 高橋 亮)

黒田恭史 著

『**豚のPちゃんと32人の小学生  
一命の授業 900日**』  
(ミネルヴァ書房)



小学校の教師となった作者が、児童と3年間ブタのPちゃんを育てた実践記録。タイトルから、「学校が舞台の本」と連想された方は多いのではないのでしょうか。しかしその学校のイメージには、いじめや体罰問題など、一見「ネガティブ」に見えるものが多いのではないのでしょうか。けれどもこの本では、Pちゃんを最終的にどうするかについて、児童を中心とする葛藤があり、「学びの場としての学校」を新たに発見できます。

見所としては、大人や子どもを越えた人間同士のやりとりや、Pちゃんと人間のやりとりがたくさん展開されている部分です。命の概念の奥深さを実感できます。

(大学院教育学専攻1年 河村めぐみ)

ニコロ・マキアヴェリ 著 『**君主論**』  
(岩波文庫)



皆さんは、人生の壁にぶつかったり、自身の不運を嘆いてしまったりしたことは無いでしょうか?そんな時に読んで頂きたいのが、マキアヴェリの『君主論』です。マキアヴェリは、16世紀のイタリアに生きた外交官・政治思想家で、近代政治学の祖とも言われている人物です。そんなマキアヴェリはというと、一般的には、目的の為に手段を選ばない権謀術数等マイナスな側面を思い出されがちですが、実際の彼は、非常に秩序を重んじた人だったようです。本書の中でマキアヴェリは、「仮に、運命が思いのままに人間活動の半分を裁定しえたとしても、少なくともあとの半分近くは、運命が我々の支配に任せてくれている」と言い、運命に立ち向かう努力の重要性を述べています。刺激的な本書のどこかが、皆さんの心に響いて頂ければ幸いです。(但し、心の弱い私は、専ら運命に流されるまま生きてしまっていますが…)

(図書館職員 小松浩二)

ぜひ手に取って  
読んでみてね♪

秋です。  
おいしいもの出回り、  
身体を動かすのにも最適、  
芸術にもひたってみよう。  
でも、秋といえばやっぱり  
読書でしょ!





# めでいもりだより

## ◆卒論特別貸出について (中央館・農学部分館)

卒論作成のための特別貸出として、通常貸出(5冊2週間)とは別に長期貸出(5冊60日間)ができます。論文提出学年(4年、院2年)が対象です。中央館・農学部分館の各窓口にある申請書に必要事項を記入の上、論文指導教員に承認印をもらってから申請してください。

## ◆「引用文献データベース Scopus講習会」のお知らせ

これから英文論文を利用することを考えている方を主な対象として、エルゼビア社の引用文献データベースScopusの講習会を開催します。講師は出版元からの専門のトレーナーです。既にScopusや電子ジャーナルを利用しているけれど、もっと便利に活用したい! という方もぜひご参加ください。

### 【日程】

詳細は図書館HPや掲示でお知らせします。

### 11月19日(火)

岡豊キャンパス(看護学科棟2F情報処理実習室)

物部キャンパス(農学部分館情報コンセントブラウズ室)

### 11月20日(水)

朝倉キャンパス(メディアの森2F教育端末室)

※お申込み・お問い合わせは各総合情報センター(図書館)

下記窓口までお願いします。

中央館 内線8163

E-mail : kg07@kochi-u.ac.jp

医学部分館 内線22490

E-mail : kg05@kochi-u.ac.jp

農学部分館 内線5117

E-mail : kg06@kochi-u.ac.jp

## ◆「図書リユースセール」のお知らせ \*メディアの森にて開催!

10月31日(木)~11月2日(土)黒潮祭にあわせ、図書館で不用になった図書や雑誌のリユースセールを行います。昨年好評にこたえ、今年も沢山の本を準備しています。ご来場お待ちしております!

## 秋の図書館ガイダンスについて

10~11月にかけて、中央館では図書館ガイダンスを予定しています。「CiNii」等を利用した雑誌論文検索から、検索した論文の入手方法などを職員がわかりやすくご案内します。

開催日程は図書館HPや掲示でお知らせします。

### \*オンデマンドガイダンス\*

ゼミやグループ等でガイダンスをご希望の場合は日程や内容もご希望にあわせてガイダンスを行います。随時受け付けていますので、ぜひご利用ください。

### ガイダンスのお問い合わせ

中央館(内線8163) kg07@kochi-u.ac.jp

医学部分館(内線22490) kg05@kochi-u.ac.jp

農学部分館(内線5117) kg06@kochi-u.ac.jp

## ◆「日経BP記事検索サービス」のトライアルについて

「日経BP記事検索サービス」は「日経ビジネス」「日経パソコン」など、日経BP社が発行している幅広い分野の専門雑誌約50誌の記事がオンライン上で閲覧できます。この機会にぜひご利用ください。トライアル期間: 10月10日(木)~12月10日(火)

## ◆農学部分館の改修について

10月下旬より、農学部分館南側旧館部分の耐震改修工事が始まります。工事期間中は開架書架の一部を移動して北側新館部分で仮図書館として開館しますが、入口等変更になりますのでご注意ください。また書庫の資料は箱詰めになり利用できなくなります。詳細につきましては決まり次第、図書館HP等でお知らせします。利用者の皆さまには大変ご不便をおかけしますが、ご協力よろしくお願い致します。

## ブックハンティングのお知らせ

ブックハンティングは図書館に置いて欲しい本をあなた自身が書店で選ぶツアーです。平日頃、自分の読みたい本が置いてないなあ、と嘆息されているあなた、出番ですよ!

### 中央館

■日時場所: 10月23日(水) 14:00~15:30 金高堂朝倉ブックセンター

10月30日(水) 12:30~14:00 高知大学生協

■募集人数: 各15名程度(本学の学部学生・院生対象) ※当日は現地集合です。

### 医学部分館

■日時場所: 10月30日(水) 17:30~18:30 金高堂 高知大医学部店

■募集人数: 15名程度(本学の学部学生・院生対象)

○参加希望の方は、各館窓口にお問い合わせください。※農学部分館は9月25日に実施しました。

## ビブリオバトル!のお知らせ

お薦め本の選挙です。推薦演説大会、即日投票。乞う参戦、乞う観戦、乞う投票。

■日時: 10月23日(水) 12:10~13:00 (1回目)

17:10~18:00 (2回目)

■場所: メディアの森2F ブラウジングコーナー

※お問い合わせ

人文学部 中道先生

E-mail : kazushi@kochi-u.ac.jp

集まれ、  
本好き!  
今年も  
やります!



## | 編 | 集 | 後 | 記 |

今号のテーマは図書館への誘(いざな)いでした。皆さんにとって、図書館はどのような存在でしょうか?自分が学生であった遠い昔とくらべると、図書館は電子化や地域への開放等で大きく変化しましたが、静かにそこにある図書館という空間の変わらない魅力を、武藤・武久両先生が語って下さいました。甘酸っぱい思い出を作るもよし、意識することで豊かな出会いを得るもよし、頃は読書にぴったりの秋です。皆さんの来館をお待ちしています。

## あうる No.10 (2013年10月発行)

[編集・発行]

高知大学総合情報センター(図書館)

〒780-8520 高知市曙町2-5-1

Tel.088-844-8731 Fax.088-844-8161

U R L : <http://www.lib.kochi-u.ac.jp/>

E-mail : [lib@kochi-u.ac.jp](mailto:lib@kochi-u.ac.jp)

